

全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

和歌山市立西脇中学校

校長 北垣 有信

本年8月末に公表されました平成26年度の全国学力・学習状況調査結果について、本校では以下のように分析しました。今後の学校での取組についても検討しましたので、お知らせします。

調査内容

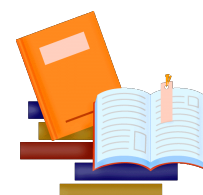
実施日：平成26年4月22日（火）

実施対象：3年生 全学級（187名）

全国学力・学習状況調査は、国語・数学ともに、主として知識に関する「A問題」と、活用力に関する「B問題」の2つがあります。A・B問題とも設問ごとに、国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、数学では「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域に分かれています。

また、学力調査とは別に、アンケート形式の「質問紙調査」があり、学校や家庭での学習・生活状況について、全国比較で見ることができます。

国語科 調査結果の分析より



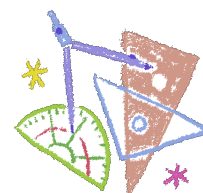
～よかったところ～

- ◎ 基礎的な語彙、基本的な心情の理解、歴史的仮名遣い、表現技法など、基礎的・基本的事項は、よく理解できている生徒が多い。
- ◎ 記述式の問題に比べ、選択式の問題はよくできている。

～課題のあったところ～

- ◆ 文章全体を最後まで根気強く読み、中心となる語句や解答に必要な情報を読み取る力が身に付いていない傾向にある。
- ◆ 「書くこと」に対する苦手意識が強く、無答率が高い。
- ◆ 古典に対する苦手意識が強い。

数学科 調査結果の分析より



～よかったところ～

- ◎ 絶対値、線対称、三角形の合同条件など、基本的な数学用語の理解は、できている生徒が多い。
- ◎ 記述式の問題に比べ、選択式・短答式の問題はよくできている。

～課題のあったところ～

- ◆ 問題を解く際に、途中の式を省く生徒が多い。
- ◆ 記述式問題になると無答率が高くなる。
- ◆ 前年度に習った事項が、十分に定着していない生徒が多い。
- ◆ 問題文から必要な情報を抜き出し、整理して問題を解決する力が弱い。特に問題文が長くなるとそれが顕著になる。



質問紙調査の分析より

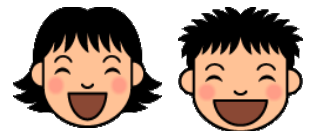
～よかったところ～

- ◎ 「自分にはよいところがある」「友達の話最後まで聞ける」「自分の考えを発表するのが得意だ」など、自尊心（自分のよさを信じる気持ち）は比較的高い。
- ◎ 悩みの相談の相手として、家族や先生を選ぶ割合が高い。（大人に対して信頼する気持ちが強い。）

～課題のあったところ～

- ◆ 放課後（帰宅後）に、テレビゲームやメール、インターネットなどを使っている時間がたいへん長い生徒が多い。
- ◆ 塾に通っている生徒が比較的多く、自宅で宿題、予習、復習など、家庭学習する習慣が身に付いていない生徒が多い。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組むこと



I 国語科の課題解決に向けて

「文章の中心を見つけること & 古典に親しむこと」

長い文章を読むとき、そこから必要な情報を抜き出したり、中心となる語句を見つけることができるように、授業の中で練習をします。また、古典に親しめるような機会を授業で企画していきます。

II 数学科の課題解決に向けて

「途中の考えを大事にすること & 復習すること」

数式の計算や図形の証明など、考えの道すじが残るように、丁寧なノートづくりを練習します。また、定期的に復習の課題に取り組んで、反復学習の時間を設けていきます。

III 全教科共通の課題解決に向けて

「根気強く読むこと & 面倒がらずに書くこと」

国語・数学のテストで共通の課題となったのが、長い文章でもしっかり最後まで読んで問題に臨むこと、記述式の問題にも面倒がらずに解答すること、の2点です。全教科の授業で、この解決に取り組みます。

IV 生活面での課題解決に向けて

「起床時刻、就寝時刻、家庭での勉強開始時刻の3つを固定すること（3点固定）」

ゲームやメール等の時間を制限し、家庭学習の習慣を身につけるため、3点固定（起床・就寝・家庭での勉強開始時刻の固定化）によって、生活リズムを整えるよう、ご家庭でもご協力ください。